

だ美  
よ術  
り館

contents

京の美意識—伝統の検証者たち	[2~5]
所蔵品によるテーマ展	[6]
福井県立美術館 友の会	[7]
お知らせ・貸館情報	[7]
近隣美術館・博物館スケジュール	[8]
日本まんなか共和国	[8]

〈表紙〉上村松園「雪」(部分) 昭和17年 東京国立近代美術館蔵





# 京の美意識

— 伝統の検証者たち

平安遷都以来、日本の都であった京都は、同時に日本の伝統文化の中心地でもありました。千年以上もの長い歴史の中に培われ洗練されてきた美意識は、数多くの優れた作家や作品を育んできました。しかし、日本人の生活や思想が急激に変化している現在、それへの関心や継承が著しく薄れ、伝統を支える美意識が揺らいでいることは否めません。

本展は上村松園(1875～1949)、小野竹喬(1889～1979)、徳岡神泉(1896～1972)、上村松篁(1902～2001)ら4人の物故日本画家、および日本画家の下保昭(1927～)、上村淳之(1933～)、伝統建築家の中村昌生(1927～)、そして陶芸家の樂吉左衛門(1949～)の4人の現代作家たちで構成されるものです。いずれも文化の都である京都を中心に、伝統を見据えた活動で大きな足跡を遺した作家、そして現在も第一線で活躍中の作家たちです。彼らの作品を通して、創作活動における伝統の意義と、京に息づく美意識とは何かを見つめる展覧会です。

\*\*\*

会 期 平成18年10月6日(金)～11月5日(日)  
主 催 福井県立美術館・福井新聞社  
後 援 県内各市町・教育委員会、NHK福井放送局、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井  
企画監修 上村淳之氏(日本画家)  
開館時間 午前9時～午後5時(金曜日は午後8時まで) ※入館は閉館30分前まで  
休 館 日 10月16日(月)、30日(月)  
観 覧 料 一般900円(800円)、大・高生600円(550円)、中・小生400円(350円)  
( )内は前売 ※30名以上の団体は2割引  
関連企画 【講演会】(無料) ※いずれも午後1時30分より当館講堂にて  
10月14日(土) 樂吉左衛門氏(陶芸家)「伝統と創造 長次郎・樂歴代と私」  
10月21日(土) 上村淳之氏(日本画家/本展企画監修者)「日本画の余白について」  
10月28日(土) 中村昌生氏(伝統建築家)「伝統から創作へ」  
【学芸員によるギャラリートーク】 ※いずれも午後2時より会場にて  
10月22日(日)、11月4日(土)  
出品点数 日本画45点、陶器16点、建築写真・図面・模型約40点  
※会期中、一部展示替えがあります。

## ◎上村松園(うえむら しょうえん) 明治8年(1875)～昭和24年(1949)

日本画家。京都市生まれ。本名は津祢。鈴木松年、幸野楳嶺、竹内栖鳳に師事。早くから各種展覧会に出品してその名を知られた。また文展へは初回より作品を発表、以後官展を中心に活躍した。昭和23年(1948)には女性として初の文化勲章を受章。京都の風俗や古典文学などに題材を求め、明快な色彩と無駄のない造形で高い精神性を秘めた女性像を描き続けた。近代日本画壇を代表する一人として知られている。

上村松園



「楊貴妃」 大正11年 松伯美術館蔵



「花がたみ」 大正4年 松伯美術館蔵 (10/21～11/5のみ展示)



「沼」 昭和45年 京都市美術館蔵

# 小野竹喬



「仲秋の月」 昭和22年 笠岡市立竹喬美術館蔵

◎小野竹喬(おの ちつきょう) 明治22年(1889)～昭和54年(1979)

日本画家。岡山県笠岡生まれ。本名は英吉。竹内栖鳳の門に入る。京都市立絵画専門学校に学び、大正7年に土田麦僊らと国画創作協会を創立。帝展・新文展で活躍し、戦後は日展で重きを成した。京都絵画専門学校教授を務めたほか、日本芸術院会員や文化功労者となり、文化勲章受章を受章。一貫して日本の自然と風景に取り組み、鮮やかで透明感あふれる色彩と詩情性豊かな独自の画風で風景画の分野に新境地を開拓した。

# 徳岡神泉



「池」 昭和27年 京都国立近代美術館蔵

◎徳岡神泉(とくおか しんせん) 明治29年(1896)～昭和47年(1972)

日本画家。京都市上京区生まれ。本名時次郎。「神泉」の号は神泉苑に因んでいる。竹内栖鳳の竹杖会に入り、京都市立美術工芸学校を経て同絵画専門学校に学ぶ。一時苦悩の時を過ごし富士山麓に暮らすが、京都下鴨に帰り福田平八郎らと研鑽を積む。帝展・新文展・日展に作品を発表、日本芸術院会員、文化功労者となり、文化勲章を受章。簡潔な構図と深い色調による精神性あふれた作品で、現代日本画に大きな影響を与えている。



「緋鯉」 昭和45年前後 個人蔵



# 上村松篁



「春輝」 昭和59年 松柏美術館蔵



「孔雀」 昭和58年 京都国立近代美術館蔵

## ◎上村松篁（うえむら しょうこう） 明治35年(1902)～平成13年(2001)

日本画家。上村松園を母として京都市に生まれる。本名信太郎。京都市立絵画専門学校に学び、西山翠嶂に師事。在学中の第3回帝展に初入選、そして第9回帝展で特選となり、官展を中心に活動する。昭和23年(1948)には創造美術の結成に参加。以後、新制作協会、創画会を中心に作品を発表、花鳥画で京都画壇に大きな足跡を残した。日本芸術院会員、文化功労者、京都名誉市民となり、昭和59年(1984)には文化勲章を受章。

# 下保昭



「白糸白韻」(左隻) 平成10年 富山県水墨美術館蔵

## ◎下保 昭（かほ あきら） 昭和2年(1927)～

日本画家。富山県砺波市生まれ。西山翠嶂に師事する。日展で特選や菊華賞を受賞し、中心作家として活躍していたが、昭和63年(1988)に脱退、以後無所属で独自の活動を始める。脱退後は水墨画に専念し、中国や日本の風景をモチーフとした幽玄・壮大な作品で独自の世界を確立、現代の日本画壇に異彩を放っている。日本芸術大賞、第1回美術文化振興協会賞、芸術選奨文部大臣賞、京都美術文化賞などを受賞。

## ◎中村昌生（なかむら まさお） 昭和2年(1927)～

伝統建築家。愛知県生まれ。彦根工業専門学校(現滋賀大学)建築科卒業。京都大学工学部研修員、京都大学助手、京都工芸繊維大学助教授、教授、福井工業大学教授等を経て、現在、京都工芸繊維大学名誉教授、福井工業大学名誉教授を務める。工学博士。また昭和55年(1980)に(財)京都伝統建築技術協会を設立、同理事長となる。主な著書に『茶室の研究』『数寄屋邸宅集成』、作品集に『茶苑の意匠』などがある。



「出羽遊心館 広間棟・茶室棟俯瞰」 平成6年7月 山形県酒田市  
撮影:田畑みなお



「臨川亭 寒河江チェリーランド茶室 立礼席」 平成6年3月 山形県寒河江市  
撮影:田畑みなお

# 中村昌生

# 上村淳之



「蓮池の冬」 平成7年 個人蔵



「晴れ間」 昭和56年 松伯美術館蔵

## ◎上村淳之(うえむら あつし) 昭和8年(1933)～

日本画家。上村松篁の長男として京都市に生まれる。本名は淳。京都市立美術大学を卒業。在学中に新制作協会展に入選、以後同展や創画展を中心に作品を発表する。京都市立芸術大学教授、同校副学長などを経て、現在は同校名誉教授。また日本芸術院会員、財団法人松伯美術館長なども務める。現代の京都画壇を代表する日本画家の一人であり、東洋絵画における空間表現を模索しつつ、新しい花鳥画を追求している。



「噴煙普賢」 平成5年 富山県水墨美術館蔵

# 樂吉左衛門



「焼貫黒樂筒茶碗」 平成16年秋 樂美術館蔵



「赤樂茶碗 花仙」 昭和58年 樂美術館蔵

## ◎樂吉左衛門(らくきちざえもん) 昭和24年(1949)～

陶芸家。十四代覚入の長男として京都市に生まれる。東京芸術大学彫刻科を卒業後、2年間イタリアのローマ・アカデミーに学ぶ。昭和56年(1981)、十五代吉左衛門を龍名する。樂家は初代長次郎以来、400年以上に渡り手びねりによる茶陶を家業とする。そのなかで当代吉左衛門は、歴代の伝統に現代的感覚を取り入れた作品を特徴とする。また海外での作陶指導や展覧会も積極的に行い、多数の受賞歴をもつ。





榎尾正次「浮世」

今回展示される作品はすべて1960年代以降のもので、これはちょうど戦後の新世代が時代に翻弄されながらも、自己の表現を開花させていった時期と重なります。60年代以降、日本の美術界はもはや一歩遅れて西欧の新傾向を取り入れるのではなく、世界と歩みをそろえ、国

## 「現代の表現者たち」

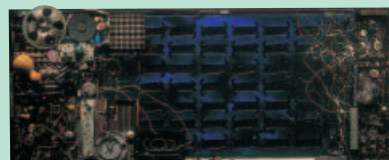
平成18年 10/6(金)～11/5(日)

際的な舞台でも認められる尖鋭な芸術家が現れます。それと同時に、伝統的な手法をもつ作家が新しい美術思潮に敏感に反応しながら、団体や個展などの活発な活動で自らの芸術を深めていきます。

サンパウロやヴェニス・ビエンナーレで高い評価を受けた小野忠弘や、都市に生きる人々の日常的な風景や孤独を描き、異色の画家といわれる日展の米谷清和など、幅広い活況を特色とする日本美術の「現代の表現者たち」の作品をご紹介します。



米谷清和「エレベータ」



小野忠弘  
「イレズミ・ダンス」

## 「特集・ドーミエ」

平成18年 12/1(金)～平成19年 1/14(日)

オノレ・ドーミエは19世紀フランスの画家であり、リトグラフの版画家です。新聞に風刺画を描く仕事につき、王政から帝政、共和制へといった激動の時代を生き生きと描き出しています。ドーミエの版画を見ると、19世紀のフランスが見えることでしょう。

### ■ ああショッキング (万国博覧会) 1855年

ナポレオン三世は「帝政、それは平和である」と言います。帝政の平和を示すためにクリミア戦争の終わった1855



ああショッキング (万国博覧会)

年に、初めてのパリの万国博覧会を開き、ドーミエも「万国博覧会」シリーズを発表します。

### ■ これがあれを殺した (時事問題) 1871年

普仏戦争に破れ、敗戦国となったフランス。

ドーミエは国民投票で、国民がウィーウィーとナポレオン三世を皇帝にしたからこそ、埋め尽くす死者の犠牲を出したのではないかと主張します。



これがあれを殺した (時事問題)

## 「新春特別展示 華・花・美人」

平成19年 1/3(水)～1/14(日)

下村観山「馬郎婦観音像」

「魚籃観音」

木村武山「日盛り」

岡不崩 「菊花図」 ほか



木村武山「日盛り」



下村観山  
「馬郎婦観音像」

## 「曾我派と岩佐派」・「岡島コレクション」

平成19年 1/19(金)～2/24(土)

～曾我派と岩佐派～

曾我直庵 「松柏に鷹図屏風」

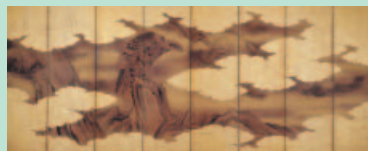
小島亮仙 「山水図」

岩佐又兵衛「和漢故事説話図」 ほか

～岡島コレクション～

後藤程乗「貝尽図目貫」

後藤即乗「這龍図目貫」 ほか



曾我直庵「松柏に鷹図屏風」(「曾我派と岩佐派」より)



岩佐又兵衛「和漢故事説話図 普武帝家車遊宴」(「曾我派と岩佐派」より)



後藤程乗 貝尽図目貫  
(「岡島コレクション」より)

美術館友の会では、会員の方を対象として各種実技講座を開催しています。  
受講者から講座の感想をたくさんいただきました。

スタンドグラス

講座

高嶋敏昭先生を講師にむかえ、6月～9月までの10回講座です。  
会員7名がメモスタンドの小物から力作の電気スタンドまで和氣  
あいあいとした雰囲気の中で製作にはげんでいます。

- スタンドグラスで学ばしていただき楽しく作る事が出来ました。美術館のおかげだと感謝しています。ありがとうございました。
- スタンドグラスの美しさ、作成する努力など先生の手ほどきでまがりなりに完成しありがとうございました。
- 何もわからず参加させていただいた講座でしたが回をかさねるごとに次の回の講座の日を心まちするぐらいのしみになりました。ありがとうございました。
- 某喫茶店に入り、目にした状差しに、ガラスの美しさにうっとり。私も何か作りたいと思い教室に入りました。先生の指導のもと、作品が出来上がるのを見て、とてもうれしく思います。ありがとうございました。



● 参加させていただいて、ガラスの美しさ、それを型に切って形にしてみても、そのうれしさに感動しました。講座を受けて良かったなあーと思いました。本当にありがとうございました。

木炭デッサン

講座

三田松一郎先生を講師にむかえ、9月～11月までの10回講座です。  
昨年に引き続いての2回目の講座です。経験者、初心者半々で16  
名の会員が受講しています。写真は第1日目の講座風景です。

- 木炭デッサンは初めてのので大変むずかしいです。最後まで続けることができるか心細く思っています。先生の御指導をよろしくお願いします。
- 木炭は全くした事がなかったので申し込みました。
- 基礎であるデッサンを深く学びたい。今後も続けてほしい。
- 今まで基礎もできていませんでしたのでこの木炭デッサン講座は、是非とも教えていただきたいかったので、今回からの教室を楽しみに勉強して行きたいと思っています。今まで知らなかった知識を、これからの作品に生かして行ければ嬉しいのですが…
- 白黒の世界は単純でむづかしいですがいつまでも初心にはなりやすい人間ですので、楽しく学ばせていただいています。
- 何か勉強したくて始めました。デッサンは初めてののでとてもむずかしいですが、一生けん命する事がたのしいです。
- 日本画を描いていますが、なかなか型がとれません。少しでも型がとれたらと思って参加しました。
- デッサンの基礎を勉強したいと思う。
- 形を写し取るのがむずかしい。白い形にも色が



- ステキな絵が書きたくてしっかりデッサンを習いたいと思っていました。絵の経験は50才中ばになって始めました。よろしくお願ひ申し上げます。
- 木炭デッサンを勉強したくて応募致しました。実技講座はわかりやすく楽しいです。
- 初心にかえて木炭をやってみようと思いました。なかなかむづかしいです。面白いです。

お知らせ

◎10月～'07年2月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、10月2日(月)～5日(木)、16日(月)、30日(月)、11月6日(月)～8日(水)、13日(月)～16日(木)、27日(月)～29日(水)、12月18日(月)、29日(金)～1月2日(火)、15日(月)～18日(木)、2月5日(月)、19日(月)、26日(月)、27日(火)は、休館とさせていただきますのでご了承ください。

貸館情報 [10/6～2/25]

10/ 6～10/ 9 ● 第25回 記念映彩会水彩画展	12/ 6～12/10 ● 琢の会洋画展	1/19～ 1/21 ● 書勢会会員展・学童競書展
10/11～10/15 ● 第11回 茂実会展 —青木孝允先生を偲んで	12/ 6～12/10 ● 下村伸紫の水墨画展	2/ 2～ 2/ 4 ● 第27回 日本墨書会展
10/19～10/22 ● 草木染彩いろ展	12/ 7～12/10 ● 全国大学・高専卒業設計展示会	2/ 2～ 2/ 4 ● 第9回 春彫会彫塑展
10/27～10/29 ● 「第3回 日本画三人展」 矢尾忍・池田久子・大森サチ子	12/12～12/17 ● 第19回 美浜美術展	2/ 9～ 2/11 ● 福井工業大学建設工学科 建築学専攻卒業研究展
10/31～11/ 5 ● 岡本守司写真展 —白山を歩いて	12/13～12/17 ● 墨仙社水墨画展	2/10～ 2/12 ● 科学技術高校 テキスタイル デザイン科卒業制作展
11/ 9～11/12 ● 福井県高等学校芸術祭	12/22～12/24 ● 第56回 福井書法展	2/13～ 2/18 ● 福井大学教育地域科学部美術 教育 サブコース卒業制作展
11/30～12/ 3 ● 第56回 福井県勤労者美術展	1/ 3～ 1/ 8 ● 第2回石倉幸夫・史子二人展	2/16～ 2/18 ● 福井高等学校芸術科 アート デザインコース卒業制作展
11/30～12/ 3 ● 新彫会彫刻展	1/ 6～ 1/ 8 ● 第54回福井奎星書展	2/20～ 2/25 ● '07毎日現代書北陸代表作家展
12/ 5～12/10 ● 「'94-'06」13年の描跡 大作を中心に小森義則展	1/10～ 1/14 ● 福井大学美術科 在学生・OB・OG有志展	2/23～ 2/25 ● 福井大学書道部卒業制作展
	1/10～ 1/14 ● 第6回 福井一陽会 新春展	
	1/10～ 1/14 ● 五百崎智子展	

福井県立歴史博物館

福井市大宮2-19-15 TEL.0776-22-4675  
休館日：第2・4水曜日

秋の企画展 鬼—姿と伝承—  
10月7日(土)～11月26日(日)



昔話の鬼、鬼ごっこ、節分の鬼など、鬼は物心がついた頃からあたりまえのようにわたしたちのそばにいました。ひとは鬼をどのようにとらえ、そして表現してきたのでしょうか。現代に残る絵画や工芸品からその姿と伝承を探ります。

一般 400円/高大生 300円/小中生・70歳以上 200円  
※ 30名以上の団体は2割引き

特別展示 由利公正  
11月3日(金・祝)～11月26日(日)

幕末の福井藩で活躍し、明治維新において「五箇条の御誓文」の草案を作成した由利公正。「五箇条の御誓文」草案を中心に紹介します。

福井市立郷土歴史博物館

福井市宝永3-12-1 TEL.0776-21-0489  
休館日：10月16日(月)

平成18年秋季特別展 福井藩と豪商  
9月30日(土)～11月5日(日)

江戸時代は全国各地に多くの豪商が出現しました。当展では特に福井藩と深い関わりがあった福井城下や三国湊、加賀藩や大坂などの豪商たちを取り上げて紹介します。

一般 500円/高大生 400円/中学生以下・70歳以上無料  
※ 20名以上の団体は2割引き

松平家伝来の刀—刀装の美—  
9月7日(木)～11月5日(日)



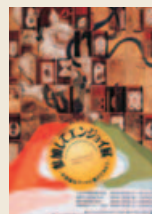
初公開を含む名刀、豪華な拵(こしらえ)の数々をご覧ください。

個人 210円/団体 150円/中学生以下・70歳以上無料

福井市美術館 [アートラボふくい]

福井市下馬3-1111 TEL.0776-33-2990  
休館日：月曜日(祝日の場合は火曜日)

参加してエンジョイ展  
—不思議なアートに触れてみよう—  
9月30日(土)～10月29日(日)



岐阜県美術館所蔵の安藤基金コレクションを中心に、「楽しい表現」、「色の不思議」、「いろんな素材」、「参加できるアート」の4つのテーマにわけて現代美術の作品を紹介しします。



元永定正「せんとあかいろのかたち」



村井正誠「役者」

一般 800円/高大生 500円/小中生 200円/70歳以上無料  
※ 20名以上の団体は2割引き

広  
報  
板

日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

中ハシクシゲ展 ZEROs  
—連鎖する記憶—  
9月30日(土)～11月12日(日)

滋賀在住の現代美術作家、中ハシクシゲ(1955～)の近作展。戦争の記憶をテーマとする近年の二大プロジェクト「On the Day Project」「ZERO Project」の紹介に加え、滋賀県ゆかりの特攻機をモチーフにした新作「OHKA-43b」を公開共同制作。



中ハシクシゲ「ZERO Project」#BI-124  
カウラギャラリー(オーストラリア)での展示風景 2002年

一般 900円(700円)/高大生 650円(500円)/小中生 450円(350円)  
※ ( )内は、20名以上の団体料金及び前売料金

志村ふくみの  
紬織りを楽しむ(仮称)  
1月13日(土)～3月31日(木)

現在90点の着物に加え、帯あげ、裂帖、色糸など数十点を超える資料を収蔵している近江八幡出身の紬織り作家志村ふくみの展覧会。

岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

HIBINO DNA AND  
—日比野克彦 応答せよ!—  
10月20日(金)～12月24日(日)



岐阜市出身で、国内外で幅広く活躍中のアーティスト・日比野克彦の、幼少時代から最新作までの膨大な作品群を一堂に展示します。更に、日比野の類まれな発想やパワーを受け取りながら、市民も共に岐阜ならではのモノやヒトとの交流を図り、様々な形で「現在進行形のアート」を展開します。

一般 700円(600円)/大学生 500円(400円)/高校生以下無料  
※ ( )内は、20名以上の団体料金。前売りは200円引き

「飛驒の版画」そのルーツをたどる  
武田由平展

1月10日(水)～2月18日(日)

飛驒における版画教育の歴史は古く、大正時代に遡ります。武田由平らによって、授業の中で子どもたちに版画を制作することの面白さを伝えたのが始まりとされています。昭和の初めに大分に転任し、版画家となった武田由平の、その後の活躍を紹介します。

一般 800円(700円)/大学生 600円(500円)/高校生以下無料  
※ ( )内は、20名以上の団体料金。前売りは200円引き

三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

艶麗な線の画家  
伊東深水の世界展  
9月23日(土)～11月5日(日)



「天性の素描家」とも言われる伊東深水の素描群は、深き芸術の成立を探る重要な資料であると同時に大きな魅力を持っています。本展では、名古屋市の名都美術館の協力により、同館所蔵の素描を完成画も交えて紹介します。画家伊東深水の素顔と生氣あふれる素描の魅力を楽しめます。

一般 900円(700円)/高大生 700円(500円)/小中生500円(300円)  
※ ( )内は、20名以上の団体料金

三重県立美術館  
コレクション展  
11月14日(火)～1月8日(日)

三重県立美術館が収集してきた作品を紹介します。

一般 500円(400円)/高大生 400円(300円)/小中生無料  
※ ( )内は、20名以上の団体料金及び前売料金